

光明寺だより

第60号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550

Tel 0897-53-4583

愛媛県仏教婦人研修大会

2月25日(水)

【大会日程】

受付	12:00～13:00
開講式	13:15～13:45
講演	14:00～15:20

会場 西条市総合文化会館

講師 島田洋七さん

参加費 1000円

携帯品 念珠・色章

★申し込み〆切 1月25日

講師プロフィール



漫才コンビB&Bとして1980年代の漫才ブームの先駆者となる。

現在は漫才師としての活動の傍ら、講演、執筆活動に取り組んでいる。

講演会は全国3900箇所を超え、著書「佐賀のがばいばあちゃん」はシリーズ750万部を超える大ベストセラーになる。

2007年テレビドラマが放映。視聴率20%を超える大ヒットになる。

2009年2月初監督映画「島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん」公開予定。

一口法話



「いのち」はなくならない

新年明けましておめでとうござい
ます。今年も「一口法話」よろしく願
います。

私たちの教団では昭和六十二年から
「ビハーラ活動」というものが始ま
りました。

「ビハーラ」とはインドの古い言葉で
「僧院」、「休息の場所」、「安らぎの場所」
という意味がありますが、この活動は、
仏教徒が医療や福祉関係者と連携しな
がら、病の苦しみや死の不安を抱えて
いる人々に寄り添い、少しでもその苦
しみや不安を和らげようとする活動で
す。つまり、ホスピスの仏教版と言え
るでしょう。

現在、全教団にビハーラの会が設立
され、夫々に活動が続けられています。
その会の一つに、「東京ビハーラの
会」(東京教区)というのがありますが、

そこで副会長をされている田久保園子
さんという方が、ご自身の幼い時の体
験を語った、大変印象深い記事が会報
誌に掲載されていましたのでご紹介し
ます。

田久保さんは太平洋戦争の始まった
年、佐賀県の浄土真宗のお寺に生まれ
られました。

九歳の時、学校の健康診断で肺結核
であることが判明します。

医者からは絶対安静を言い渡され、
退院後もお寺の離れで一人寝ている
日々を過ごすのです。

最初はよくお見舞いに来てくれたク
ラスメイトも月日が経つにつれ次第に
遠ざかっていきました。

彼女は境内で元気に遊ぶ子供たちの
声を聞きながら涙を流し、自分はこ
のまま死んでゆくのだと、「死」を意識
するようになるのです。

その頃、彼女が子供心に抱いた「死の
イメージ」というのは、近所
にあった古い井戸の中に
真っ逆さまに落ちていくと
いうものでした。それはど



こまでいっても真っ暗闇の底なしの井戸
に落ちていくというものです。

幼い彼女は恐怖のあまり、真夜中に何
度も悲鳴を上げ、「お父さん恐ろしい、ど
うしたらいいの」と泣きながら訴えたそ
うです。

彼女の訴えに、寺の住職であるお父さ
んは、数日後、色とりどりの風船を膨ら
ませて、次のような話をしてくれたので
す。

「園子、いのちはね死んでも決してな
くならないんだよ。

ここにいろんな色の風船があるね。

青い風船はお父さん。黄色い風船はお
母さん。白い風船はおばあちゃん。そし
て赤い風船は園子、お前だよ。

今は空気が一杯入ってパンパンに膨ら
んでいるけど、いつかはしぼんでしま
うし、いつパーンとはじけてしまうかも
しれないよね。

でもね、中に入っていた空気はなくな
るんじゃないよね。中の空気は外の空気
に合流するだけだよ。

いのちも同じなんだよ。

(次ページに続く)

大きな大きないのちの中に、人間の一人一人のいのちも外へ出て行くだけ。体がなくなっても、形は変わっても、中のいのちは外のいのちに合流するだけ。そして、大きないのちがまた新しいいのちを創る働きになるんだよ。

だから、死ぬことを恐れなくてもいいんだよ。たとえ風船がなくなっても、中の空気はいつもみんなと一緒にあるんだから」

この話を聞かされた田久保さんは、それまで抱いていた死への恐怖感がすっかり消え失せ、一瞬のうちに目の前が光り輝いたそうです。

このお父さんの「いのち」のお話は、まことに素晴らしいものがあります。簡潔で分かり易く、しかも仏教の教えに基づいています。私もこの説明を聞き、「そうだなあ、その通りだなあ」と深い安堵感を覚えました。

親鸞聖人は、「弥陀仏は自然じねんのようを知らせん料なり」と仰っています。

つまり、「阿弥陀さまは、あなたのいのちは、すでに無限なるもの（無量壽・無量光ⅡアミダⅡ自然）の中に包まれ

ている「いのち」なのですよ。決して肉体に閉じ込められているだけの小さないのちではありません。大きな大きないのち（アミダ）の一部分なのですよと、私たちに知らせに来て下さっている」と仰っているのです。

それは、内にあっても、外にあっても、風船の中の空気は、常に大気と共にあるように、大いなる「いのち」と共にいつまでもあり続ける「いのち」なのです。

物質文明と呼ばれる現代、形あるものにしか価値を認めない私たちは、「死んだらおしまい」とよく口にしますが、決してそうではありません。

この「いのち」は、大いなる「いのち」から生まれ、支えられ、そうして、大いなる「いのち」に帰らせてもらうのです。それが「いのち」の本当のあり方だと思います。

田久保さんは、この時の体験を通して、父から伝えられた「いのち」の受け止め方というものを、子供たちにしかりと伝えていきたいと思うようになり、子育てを終えてから、仏教の専門学校に入り、僧侶の資格を取り、折から活動が

始まった「東京ビハラの会」に入会されたと語っています。

彼女が愛唱されている金子みずさんの「蜂と神さま」という詩を最後に紹介します。

蜂と神さま

蜂は お花の中に
お花は お庭の中に
お庭は 土塀の中に
土塀は 町の中に
町は 日本の中に
日本は 世界の中に
世界は 神さまの中に
そうしてそうして
神さまは ちっちゃな蜂の中に



別離の年の出来事

お法事は亡き人を偲び、日頃忘れかけている命のつながりの深さに思いをいたし、この私が仏縁に遭わせて頂くための大切な仏事です。別離の年にどんな出来事があったのでしょうか。あらためて振り返ってみましょう

1周忌
平成20年
(2008)

「秋葉原通り魔事件」 1月橋下徹氏が大阪府知事に 5月中国四川大地震 6月秋葉原通り魔事件 8月北京五輪開催 9月事故米流通。麻生内閣発足 11月大阪で引きずり事件相次ぐ

3回忌
平成19年
(2007)

「郵政民営化」 2月納付者を確認できない年金給付記録が5千万件あることが発覚 8月作詞家阿久悠死亡 9月安倍首相突然の辞任 10月日本郵政公社が民営化

7回忌
平成15年
(2003)

「自治体平成の大合併」 3月ロス疑惑三浦和義無罪確定 5月白装束軍団各地で謎の運動 8月火星と地球6万年ぶりに大接近 9月ベネチア映画祭で北野武「監督賞」を受賞

13回忌
平成9年
(1997)

「酒鬼薔薇聖斗事件」 2月神戸で小学生殺傷事件（酒鬼薔薇聖斗事件）中3男子逮捕 7月香港、英国領より中国に返還 4月消費税3%から5%に 8月ダイアナ妃交通事故死

17回忌
平成5年
(1993)

「皇太子ご結婚」 5月プロサッカー「Jリーグ」発足 6月皇太子と小和田雅子様「結婚の儀」が行われる 7月北海道南西沖地震発生。奥尻島、地震と津波で壊滅状態

25回忌
昭和60年
(1985)

「大鳴門橋開通」 4月科学万博・つくば'85 7月ビックリマンチョコ大ブレイク 8月日航ジャンボ機墜落520人犠牲 11月阪神タイガース、初の日本一に

33回忌
昭和52年
(1977)

「王、世界記録」 4月「日本教育テレビ」改め「テレビ朝日」に 8月Eプレスリー死亡 9月王貞治756本の本塁打世界記録。日本赤軍日航機をハイジャック

50回忌
昭和35年
(1960)

「長男ご誕生」 2月皇太子妃美智子様がご長男をご出産 6月安保闘争 9月ローマ五輪エチオピアのアベベ裸足でマラソン金メダル 10月社会党、浅沼稻次郎暴漢に刺殺

100回忌
明治43年
(1910)

「南極探検隊」 2月清国チベットに侵攻ダライラマ13世を退け主権確立 8日日韓併合条約調印 11月日本初の南極探検隊が東京から出発

年末年始行事集

【報恩講】



今年は住職がお話をいたしました。
仏法を聞くとはどういうことか、聞けばど
うなるのかといったこととお話しました。

【除夜の鐘・元旦会】

例年に比べ、寒さが和らぎ、しのぎやすい大晦日になりました。
甘酒、樽酒を頂いた後、本堂で元旦会を勤めました



【新春法座】



講演趣旨・現代の日本社会は、西洋の二元論的
(自と他を分ける)な考え方に支配され、日本人の
よき伝統であった「つながりの中に生きている」と
いう考え方が失われ、大変冷たい社会になってし
まった。私たちは決して一人で生きているのでは
なく、深い関わりの中でこのいのち(=身)は生か
されているのである。自他一如(自と他は一つ如
し)を説く仏法を依り所にしていくことが、今一番
私たちに求められていることである。

趣味の広場



俳句を楽しむ(三十九)

森本隆を

一月も終わり近い頃ですが皆様にはご機嫌よく新年をお迎えでしょうか。今年もよろしくお願ひします。年を取ると月日の経つのは早い、とよく言われますが、まことに昨年も色々の事がありながらも、あつという間の一年でした。俳句一つ例にとつても、満足のゆく一句も詠めぬまま終わってしまいました。

今回は私ごとの話題を始めますが、私の所属する「嵯峨野俳句会」という結社は、その名の通り本部編集部を京都に置き、会員数は五百に満たぬこじんまりした俳句会です。宮城県から福岡県にわたる広範囲な会員構成で主宰は横浜在住。年次大会も京都と東京とで交互に開催します。昭和四十六年創立で現主宰で六代目、和氣あいあいとして自由な句風を尊重してくれ、地方の結社にあり勝ちな押しつけや馴れ合いはありません。その会員兄弟の作品のうち、ちょうど今ごろ、立春を過ぎたばかりの早春のころの句をご紹介します。

草若し高圧線の鳴る下に 植松 紫魚
ここちよき風に身を置き春田打つ

北尾 きぬ

快適な春や秋に比べて、暑い夏と寒い冬とはどうしても長く感じますね。特に冬の寒さは人間を閉じ込め、自然を眠らせて長期間居座ります。その寒さに耐え続け、ある日ふと野面に草の萌え出たのを見つけた時、そして昨日までの冷たかった風が今日なんとなくやさしく感じられた時、待ちに待った春がついにそこに来ていたことに気づいた瞬間を句にしたものです。「草若し」の句の方は、まだ風の冷たさを感じさせます。作者の紫魚さんは四十代半ばの気鋭の作家で感受性豊かな人です。

茶柱によき事ありや今朝の春 内田 康子
暦で今日は立春だと確かめただけで春の暖かさや明るさが心の中に広がる様な気分になります。茶柱が立った縁起の良さまで加わり、素直に喜び今日一日を期待する作者の心の若さが表われています。安穩な日暮らしを楽しむ高齢者の心の安定を感じます。

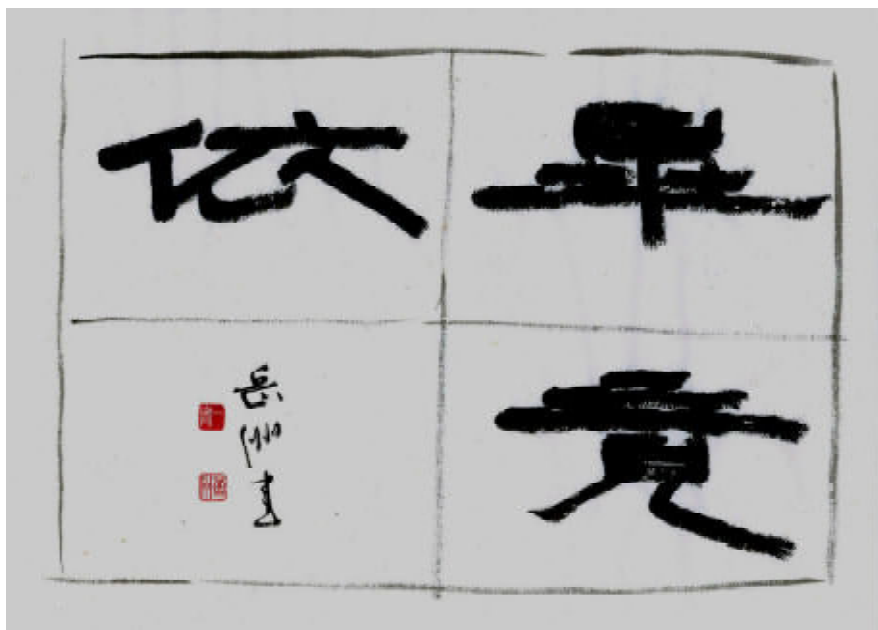
勞りつ使ふ手足や春寒し 真木美枝子
前の「茶柱」の句とはまた一味違った高齢の方の心境句といえます。加齢とともに不由や痛みなどが遠慮会釈なく人間を悩ませるのは致し方のない事です。老いとうまく付き合いつつ本格的な春の訪れを待つ毎日なのですね。「勞りつ」という表現に、今日という日の命を大切に思い、しかも明日の自分に対する思いやりまで感じてしまいます。難しい言い回しなどまったく必要ない、素朴な詠み方

で、また「春寒し」という季語の用い方も素晴らしく思います。

春炬燵シエクスピアもただ眠し 中村優江
毎日を忙しく過ごす女性の方なら誰しも共感を覚える句だと思います。ちなみに作者は、桂離宮門前の創業百数十年の和菓子舗「中村軒」の女将として店の切り盛りを一手に引き受けるなかなかのやり手女将でもある京美人です。私も十五年くらい親しくさせてもらっています。銘菓「麦代餅」は、作つたその日のうちにしか食べて貰いたくないというこだわりの銘菓で味は絶品です。多忙な一日の一寸した時間にコタツに入り読書を楽しもうと思つたもののついウトウトと……という誰にもある瞬間の句です。家族と職人さんのチームワークよく家業も順調で、充実した人生の一瞬を切り取つた、そんな感じなんです。今日例に上げた五句に共通して言えることは、肩に力を入れたり張り切りすぎたりせず、季節や自然の中で生きる自分の姿や気持ちを素直に言葉で表わし、五七五の一定律で詠んだだけ、ということでしょう。それだけ、読む私たちにもわかり易い、ということですね。
あたたかい春も遠くありません。次号のころには今と違った野山の姿が見えますね。



住職書作品



畢竟依（ひっきょうえ）——究極のよりどころ。阿弥陀如来

心に残る詩

人間距離 大阪 田中伸子

車と車には
必要な
車間距離がある
人と人との間にも
必要な
人間距離がある
思いやりという
距離で
自分と違う
意思を持った人を
尊重するための
人間距離がある



*次号発送予定・・・3月上旬



「光明寺だより」を、ご家族の
皆さんでお読み下さい。

おねはん
涅槃会のご案内

日時 3月28日(土)

1年目の人 9時～10時

2年目の人 11時～12時

3年目の人 13時～14時

該当者には3月上旬に「案内状」をお送りします



言葉のプレゼント

きび
厳しい言葉に
われ
「我」に帰り
われ
甘い言葉に
われ
「我」を忘れる

テレフォン法話
0897-53-4585



★12月7日の報恩講には多数の参拝者がありました。本年の皆勤者は、越智敏子・田坂保美・田坂文子・谷口幸平・永井初江・松本朱美・宮嶋保子・森本隆雄・森賀英幸・森賀愛子・安永省一・安永敏枝（敬称略）。以上12名の方々でした。

（*関連記事5ページ）

★12月中旬、安藤忠雄先生より書籍『建築家・安藤忠雄』新潮社）が送られました。困難な時代の中、自分の出来ることをしていきたいという書簡も同封されていました。

★1月8日、新春記念法座が行われました。（*関連記事5ページ）

★「愛媛県仏教婦人研修大会」（2月25日開催）の実施要綱を掲載しています。ぜひご参加ください。

（*関連記事1ページ）

